

東京農業大学 長期派遣留学帰国報告

国際食料情報学部・国際農業開発学科

三年 近藤桜

私は2022年7月から同年12月までの半年間、タイのカセサート大学に留学させていただきました。大学入学当初からこの長期派遣留学プログラムに興味を持っており、コロナウイルスによる一年間の延期を経て、三年生の夏に出発し先月無事帰国しました。現在帰国して一ヶ月が経とうとしていますが、留学の半年間が夢だったのではないかと感じるくらい、充実した時間を過ごせました。

カセサート大学では、「光スペクトルがマイクログリーンに及ぼす影響」と題して、LEDルームでマイクログリーンを育て成長や栄養素を調査する研究を行いました。自分が決めた研究を半年間かけて先生とマンツーマンで行うという内容で、私自身研究はもちろん、実験も授業で数回経験した程度だったので、初めは慣れないことが多く苦労しました。しかし、研究には他大学のLEDルームを借り、毎週先生が車で送ってくれたこと、土日含めて毎日実験室を使いながら様々な実験器具や薬品に触れられたことなど、客観的にみると自分のおかげでいる状況、環境が非常に恵まれていると感じました。日本ではできない貴重な経験をさせてもらっていたからこそ、朝から晩まで実験で大変だった時期でも、心のどこかでその大変な状況を楽しんでいた気がします。結果、この研究を通して世界各国の野菜の専門家の方とお話しする機会もあり、ファイナルプレゼンテーションを終えたときには強い達成感を味わうことができました。

カセサート大学の先生方はとても親切で、多くの行事にも参加させていただきました。三泊四日のfield tripでは片道電車8時間バス4時間でサコンナコンキャンパスに行き、タイの北東部の人々の暮らしを実際に見て多くのことを感じました。Field tripはタイの学生とラオスの留学生のみだったので全てタイ語でしたが、みんなが親切にしてくれて一緒にゲームをしたり、楽しい時間を過ごせました。他にも大学のお祭りや料理教室などさまざまなイベントを通してたくさんの方と交流できました。また、カセサート大学の空手部の練習にも参加しました。そこで出会った幅広い年代の方々ともたくさんお話しする機会があり、タイについて色々なことを教えてくれました。空手部の人たちとは私が行ったかったカオヤイ国立公園へ行ってきれいな景色を見ながらハイキングをしました。カオヤイで友達と見た星空は今でも忘れられません。

寮ではインドネシアからの留学生と同部屋でした。初めは緊張と不安が大きかったです。毎日の何気ない会話を通じてだんだん距離が縮まり、お互いのことやお互いの国につ

いてよく知っていくなかで、毎日寝る前にルームメイトと話すのが楽しみでした。帰国時には空港まで見送りに来てくれて、最後の別れる瞬間は人生で一番泣きました。絶対にまた会う約束をしたので、いつかお互い成長した姿で会えるように頑張りたいです。

半年間という短期間でしたが、言葉では伝えきれないほどの経験をして多くのことを学びました。それは留学を通して出会ったカセサート大学の先生方や学生、周りの留学生など、すべての方々のおかげであり感謝してもしきれません。また、留学期間中も含め、私の全ての選択を応援し支えてくれた家族にも感謝しています。留学を通じて学んだこと、気づいたこと、感じたことを今後の人生に活かしていくよう、まずは残りの学生生活においてしっかりと目的を持って努力したいです。